



# おおあし

第11号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/>  》

## 人は人のほんの一面しか見ていない

受験シーズンとなりました。「受験」については保護者の皆様もきっとそれぞれの思い出があることと存じます。また、現在「受験生」のいるご家庭もあることと思います。コロナ感染の再拡大でより健康管理が重要となります。万全な体調で試験に臨めるようお祈り申し上げます。

唐突ですが、シンガーソングライターの井上陽水は父親が歯科医だったため、家業を継ぐべく歯科医系の大学を受験しました。しかし、三浪の末、歌手の道へ進みます。潜在的な歌のうまさのエピソードがあります。小学生の時、町内会のバス旅行で美空ひばりの歌を歌ったところ、「あきみちゃん（陽水…本名は『あきみ』）は歌がうまいねえ」と褒められます。陽水自身その出来事について「初めて人前で称賛の快感によいしれ、同時に美声を自覚する」と書いています。また、中学校の音楽の時間に友達とふざけていたところ、「罰」として歌わされるのですが……音楽の先生はその歌声と歌唱力の高さに驚かされる結果となります。後に、陽水は、「罰として歌わされるのが日本の音楽のレベルの低さを物語っている。歌が罰になるなんて。これが欧米なら人前で歌うことは誇りなのに」と言っています。見た目や思い込みで人を判断してはいけない例を次に挙げます。『知力と学力 -学校で何を学ぶか-』（波多野誼余夫・稲垣佳世子著 岩波新書 1984年）の中から一部引用します。若狭蔵之助が学級で教師指定の宿題をやめ自由勉強帳を提出するようにした話です。

瓦屋の子どもが、父親の仕事の手伝いをしながら学んだこと、考えたことを「瓦の秘密」と題して、自由勉強帳に書いてきたのである。教師である若狭は、これを読み、教室では「おとなしくあまり出来のよくない生徒」であったその子の意欲と研究心に目をみはる。そして自分が教室の中で見ている子どもが、その一側面にすぎないことを反省するのである。また、教師が印刷して配った、その子の「瓦の秘密」の文章を読んだ他の子どもたちも、そこに日頃の彼とは異なる側面を発見して感嘆したという。（原文ママ）

私が中学校で勤務をしていたとき、地区の駅伝大会へ出るために生徒と一緒に練習をしていた時の事です。リレー形式の練習だったでしょうか、私がある生徒を追い抜こうとした時、その生徒は私の存在に気づくやいなや必死の形相で抜かれまいともがき出したのです。実はその生徒は座学では消極的なタイプで発言もほとんどありませんでした。内に秘めた「負けん気」を見せつけられた思いがしました。これも私事で恐縮ですが、大学時代に仲間と「陸上競技同好会」を創設し活動していました。なんとそれが縁で箱根駅伝の補助員をさせてもらえる幸運にも巡り会えました。さて、ある日の練習後、後輩から「橋本さんはテレビの体操のお兄さんになるといいですよ」と言われたのです。運動は好きでしたが、自分ではそれほど快活ではないしどちらかというと人の前に立つ性格ではないと思っていたので意外でした。自分が知らない自分の一面に気づかされた瞬間でした。

学級活動で「いいところ探し」というのがあります。「〇〇さんのよいと思うところを書きましょう」「掃除を一生懸命している人はだれですか？」「〇〇さんがしてくれたことでうれしかったことは何ですか？」等の方法で行われたりします。多くの子どもが自分では気づかなかったことに注目されてうれしいようなこそばゆいような気持ちになります。私は職員にできるだけ児童に役割を与えたり発表の場を設けたりするように伝えています。「役割」「立場」が可能性を引き出しその人を成長させるからです。ご家庭ではつい我が子を厳しく見てしまいがちで「よくないところ」を叱ることが多くなるのは世の常ですが、ぜひお子さんのよいところを見つけて伸ばしていただけるとありがたいと存じます。本校も児童109人を全職員で見守って「いいところ」を見つけていきます。

(校長 橋本 浩)